

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護保険制度改正後に、理念を作り直している。地域密着と利用者を中心とした簡潔でわかりやすい理念が掲げてあった。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で協議して作成したもので、その主旨は、職員の全員が理解し共有をしていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行う行事や学校の文化祭等に参加し、ホームで作成したおじゃみやペーパークラフトをプレゼントして交流を深めたり、近所の住民や踊り・押し花等の趣味の先生などがホームを訪問して楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	普段から全職員で評価の意義を理解し、気づいた点などの改善に向け努力している。		

宮崎県延岡市北川町 グループホームきたがわ荘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年5～6回開催、ホームの状況や利用者への理解が深まってきた。また、地域と交流する橋渡しの役割をしていただく事も多く、ホームへの来訪者や声かけをしていただける機会も増えている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	本年初め市町村合併が成立したこともあって、担当課が遠方となり交流が減少してきた。	○	待ちの姿勢では改善しないので、積極的に市へ出向きホームをアピールし、行政と共にサービス向上に力を注ぐことに取り組んでいただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に近況報告するとともに、定期的（3か月）または随時に利用者の状態報告やホームでの様子を伝え家族との連携を図っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情はなく、相談事が多い。管理者や職員が積極的に対応し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設特養との人事異動やケガによる離職が重なり、職員の変動が多い時期があったが、なじみの職員が常にいるように配置するなど工夫し、利用者へのダメージを最小限に抑えるような配慮がされている。	○	職員育成等の必要から法人の人事異動は仕方ない面があるが、必要最小限になるような努力をしていただき、異動・離職があった場合、今までのように利用者のダメージを最小限にするような配慮をしていただきたい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	階層別研修・特養を併せた施設内研修・ホーム内夜間研修(月2回)等、積極的に職員研修を実施しながら職員の資質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内ブロック研修・グループホーム交流勉強会等に参加し、質の向上を図っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新しく入居した方の不穏時などは、以前通っていた同敷地内のデイサービスに行き、特養をまわってグループホームに帰ってくるコースを毎日繰り返すなどして、本人の気持ちに寄り添い徐々になじんでいただけるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話を大切に共に笑い、何でも話せる間柄を保ち、その人のやりたい意欲を支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位の過ごし方を尊重している。態度や表情なども判断しながら、思いをくみ取る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見を基に、職員全員で論議のうえ、介護計画を作成し実行に移している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常6か月ごとの見直しを行っているが、状態の変化が生じればその時点で実施している。本人・家族の意見も十分考慮し職員全員で作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	加齢や状態の悪化、家族の高齢化等のため、将来の介護についての相談が多く、併設している特養入所や短期入所及び終末ケア等の利用も含めた支援方法等について対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の掛かりつけ医師及び施設の協力医師により適切に医療を受ける支援ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や主治医と話し合い、早い段階から終末期の対応ができるよう全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	いつも笑顔でおだやかに接し、一人ひとりに応じた言葉かけや対応を行うよう配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課である毎朝の体操以外は利用者のペースを大切に、希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士のたてた献立表はあるが、誕生日の利用者がいる時は食べたいものの希望に沿ったり、頂いた野菜がある時は変更し、利用者と一緒に食事の準備や片づけをしている。また職員全員が食卓につき、会話をしながら食事をし、ひとつの家族のようなあたたかい雰囲気があった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿ってゆっくり入浴をしていただき、入浴拒否があった場合は、別の職員が声かけをしたり、時間をおいたり工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の個性や意思を尊重して、畑仕事・洗濯物干しの手伝い・食事の配膳手伝いなど得意な分野、できることで役割を持っていただいている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、毎日自由に散歩に出て、草花や風景を楽しんでいる。買物やドライブも希望に沿って実施しており、年に何回かは遠くまで外出をし、食事をしたり季節を楽しんでもらっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に鍵をかけることはなく、自由に出はいることができるようになっている。、夜は入居者自らがホールの窓の鍵をされるので、職員が後でさりげなく確認を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の特養との合同訓練には、地元消防団との連携で実施している。夜間時の緊急事態に備えた連携や、ホーム独自の避難訓練(3か月ごと)を実施しており即対応できるように努力している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立を参考に調理している。一人ひとりに合わせた調理方法や量を調整している。食材は地域から頂いた野菜やホームの畑で採れた旬の物を使うことも多く、新鮮な食材に恵まれている。水分量も決めた時間を目安に摂取していただけるように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の集まるホールに入ると、高い天井が広がりを感じ、茶香炉からはお茶を煎るいい香りがうっすらと漂い癒される。また、壁には利用者と作成した季節の押し花等が飾っており、居心地よく過ごせる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の使いなれたものを自宅から持ち込み、その人らしい置物や写真が飾られ、居心地よく過ごせるような工夫が随所に認められた。		

※  は、重点項目。